

令和6年2月1日(木)

校長室より(145)



こんにちは。

2月に入りました。別名「如月(きさらぎ)」ともいいます。ほかに、令月(れいげつ)、仲春(ちゅうしゅん)、梅見月(うめみづき)、雪消月(ゆききえつき)、木芽月(このめつき)、雁帰月(かりかえりつき)、恵風(けいふう)などといわれることもあるようです。ちなみに英語だと「February」です。

そして、1月1日の「能登半島地震」から1ヶ月が経ちました。今朝の朝日新聞1面の天声人語に次のようなことが書かれていました。ちょっと難しい文ですが、高学年のみんなならわかると思うので載せます。

激しい雪のなか、海沿いのカーブを車で曲がった。あれは何だ。前方で、黒瓦の美しい家々のはらわたを喰(く)いやぶられたように1階の家財道具をぶちまけている。冷蔵庫、布団、椅子……。護岸の向こうに場違いに転がり、ドオドオという日本海の波音だけが響く。時が止まっていた▼先週訪れた石川県珠洲市の寺家(じけ)地区は、大きな揺れに加えて津波に襲われた。それにしても、これが発生1カ月を迎える光景なのか。「1月1日の夕方から街の景色が変わっていない」。

この1か月間でみんなは、いろんなことをしてきたことでしょう。でも被災地では、1か月经った今でも何も手つかず(そのまま)の地域があるということです。「今の日本にそんな状況のところがある」ことをより多くの人に知ってもらいたいと思います。結びには、こう記されていました。

春までの道のりは長い。だが一歩ずつ近づいている。そう信じたい。